

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床薬理学		講義	仮家 公夫	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
医薬品の位置づけ、体内動態、作用形式や薬効に影響を与える因子などの総論を重点的に講述する。各論は限られた時間なので、将来の業務に関連すると思われる医薬品について、テキストと適宜プリントで内容を追加して解説する。なお、授業はパワーポイントと板書で行う。				
授業の到達目標				
解剖学や生理学や生化学などの知識を使い、臨床工学技士として必要な神経系、循環器系、呼吸器系や消化器系に作用する薬物および抗感染症薬や抗悪性腫瘍薬の基本的プロセスを修得する。				
授業計画				
回	内容			
1	臨床薬理学とは：疾患と臨床薬理学			
2	医薬品の開発と法・制度			
3	医薬品の体内挙動（1）：医薬品の体内動態			
4	医薬品の体内挙動（2）：医薬品の作用機序			
5	薬効に影響する因子：年齢、性、妊娠、遺伝子など			
6	医薬品の安全性：有益性と危険性			
7	抹消神経系に作用する薬物の概説：自律神経系に作用する医薬品			
8	循環器系に作用する薬物（1）：降圧薬、狭心症治療薬			
9	循環器系に作用する薬物（2）：心不全治療薬、抗不整脈薬			
10	呼吸器系に作用する薬物：呼吸促進薬、気管支喘息治療薬、鎮咳・去痰薬			
11	中枢神経系に作用する薬物（1）：催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ・気分安定薬			
12	中枢深部系に作用する薬物（2）：パーキンソン病治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬			
13	抗感染症薬（1）：基本事項、抗菌薬			
14	抗感染症薬（2）：抗真菌薬、抗ウイルス薬			
15	抗がん薬：基本事項、抗がん薬各論、分子標的薬			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	原則として記述式（キーワードを用いて箇条書きが出来るように）		
レポート	なし	講義に対する学生の理解度のチェック		
小テスト	なし	行わない		
平常点	なし			
その他	なし			
自由記載	受講態度の悪い学生は退出させる。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
系統看護学講座：薬理学	吉岡充弘 他		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
今日の治療薬2019	浦部 晶夫 他		南江堂	
自由記載				
備考				
質問は、紙ベースで学籍番号・氏名明記して学科事務室に提出して下さい。				